

## 巻頭インタビュー



認定特定非営利活動法人  
富士山クラブ  
静岡事務所長

深澤 寛貴さん

### Interview

# 富士山の魅力は 美しさを肌で感じ、広く伝えることから

## 富士山クラブの 活動状況

私たち富士山クラブは、「美しい富士山を子どもたちに残していくために：」というスローガンのもと、1998年の創立以来、静岡・山梨両県にわたり環富士山地域で環境保全活動を行っています。創立当初に取り組んだ「バイオトイレプロジェクト」は、現在の富士山における環境配慮型トイレ設置の一助になったように思います。

現在は、富士山体だけでなく、山麓や海岸を含めた富士山全域での清掃ボランティア、外来植物の駆除、森づくり等を中心に活動を行っています。

## コロナ禍での創意工夫

現場レベルの具体的な実践活動を標榜し、行政、企業、教育団体等、様々なみなさんと協働しながら活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の蔓延で、活動を実施するにあたってはいろいろと苦労しており、規模の大小

にかかわらずどんなイベントでもまず感染拡大につながらないかを仲間たちと協議し、開催の可否を判断しています。

私たちの活動は継続してこそ意義があり、永続的なものにしていくためにはやはり活動の灯を絶やしてはいけないとの思いがあるため、講演をリモート開催に



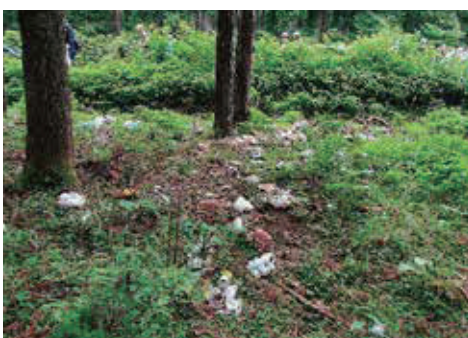
J.P.モルガンのみなさんとリモートセッション(2020年11月)

したり、実践が難しい活動に関しては、「富士山の現状を知っていただく」為の啓蒙活動に内容を変更して実施しています。個人の考えとしては、環境保全活動は、いろいろな意味で「続ける」ことがとても大切だと考えています。

## 富士山の現状を 知ることが大切

今でも「富士山はごみだらけなんですよ?」と尋ねられることがあります。5合目以上の登山道ではほぼごみは見受けられません。

一方で、山麓部、特に富士山を周回する幹線道路沿い等は、一見するときれいな緑が続きますが、森の中には、ペットボトルや空き缶、食べ物の容器や包装等をはじめとした「ポイ捨てごみ」が散見される場所も多くあります。一般の方に参加していただく活動においては、ごみ拾いの成果はもちろんですが、現場に足を



富士山の現状を知ることが大切

阪急交通社様との清掃ボランティアツアーの記念撮影  
(2019年10月)



運び、体験して、多くの気付きをお持ち帰りいただけるよう心掛けています。またそれが、富士山にとどまらない次の環境アクションに繋がるのではないかと考えています。



集められた富士山のゴミ

清掃ボランティアは設立当初から力を入れている活動です。「隅から隅までごみのない富士山」と言えるその日まで、活動を続けて行きたいと思っています。

## 富士山麓の美しい自然

富士山の中腹にある「西臼塚」をご存じですか？標高1,200m付近、樹齢数百年というブナや



西臼塚公園入り口

ミズナラの巨木もままある素晴らしい天然林が広がる場所です。富士山というところ、やはり「富士登山」を思い描く方が多く、中腹の自然に目を向けられることは少ないように思いますが、「富士山の魅力」を伝えることが、「守る意識」に繋がると 생각합니다。参加者のみなさんには活動のいろいろな場面で、素晴らしいことを知っていただけるように努めています。西臼塚の国有林では、富士山クラブと静岡森林管理署が協定を結び、森づくり、清掃、外来植物除去等の活動を行っています。



外来種講習会の様子

また、富士宮市北山では、静岡県環境ふれあい課、(株)アサヒ飲料と「しずおか未来の森サポーター」の協定を結び里山づくりを開始するなど、豊かな森林を次の世代に引き継ぐために自然再生や保全の活動に取り組んでいます。

## 今後に向けて

富士山クラブはボランティアの方々や、地域のみなさん、サポート企業・行政など多くの方にお世話になっていきます。富士山の環境問題の解決には、官民問わず一体となった協働が必要で、何よりの近道だと思っています。NPO本来の役

割としても、この一翼を担えるような取り組みを、今後も行っていければと思います。時代は大きな転換期を迎えコロナ禍により更に拍車が掛かった状況にあるように思います。個人的には、過渡期の今、これからの富士山を考える上で、未来を担っていく、子ども達や、10代、20代の若いみなさんに私たちの活動をどう繋いでいくべきか、そんなところに注力して行きたいと考えています。

富士山クラブホームページ

<https://www.fujisan.or.jp/index.html>



インタビューに答える深澤寛貴さん

ふか さわ ひろ たか  
深澤 寛貴氏

1976年 富士宮市生まれ。

認定特定非営利活動法人富士山クラブ 静岡事務所長

地元猟友会にも所属し、富士山麓を公私ともに巡る日々を送る。

「様々な立場や考え方があること。生活者の視点でこれからも富士山を考えていきたい」と語る。

